

第十章 子なる神・復活

I 旧約聖書における復活

キリストの復活だけでなくすべての人間の復活が旧約聖書の中で教えられている。これはヨブの時代まで逆上ることができる。(ヨブ記 19:25-27、ヨハネ 5:28、29、黙示録 20:4-6、12、13) また、旧約聖書の預言はからだの復活を予期している。(ヨブ記 14:13-15、詩篇 16:9、10、17:15、49:15、イザヤ 26:19、ダニエル 12:2、ホセア 13:14、ヘブル 11:17-19)

特に詩篇 16:9、10 にはキリストの復活が記されている。これは、使徒 2:24-31、13:34-37 でペテロとパウロによって、キリストの復活を示すものとして引用されている。そのほか、詩篇 22:22、118:22-24 (使徒 4:10、11 参照) に記されている。

II ご自分の復活についてのキリストの予告

福音書でキリストはご自分の死と復活を予告しておられる。(マタイ 16:21、17:23、20:17-19、26:12、28、29、31、32 他)

III キリストの復活の証拠

新約聖書は、キリストの復活の圧倒的な証拠を示している。復活後、キリストは 16 回にわたって人々に現れた。

- (1) マグダラのマリヤ (ヨハネ 20:11-17)
- (2) 女たちに (マタイ 28:9-10)
- (3) ペテロに (ルカ 24:34、I コリ 15:5)
- (4) エマオ途上で弟子たちに (マルコ 16:12、13、ルカ 24:13-35)
- (5) 10 人の弟子たちに (マルコ 16:14、ルカ 24:36-43、ヨハネ 20:19-24)
- (6) 復活の一週間後、11 弟子たちに (ヨハネ 20:26-29)
- (7) ガリラヤ湖畔で 7 人の弟子たちに (ヨハネ 21:1-23)
- (8) 500 人以上の弟子たちに (I コリ 15:6)
- (9) 主の兄弟ヤコブに (I コリ 15:7)
- (10) ガリラヤの山で 11 弟子たちに (マタイ 28:16-20、I コリ 15:7)
- (11) オリーブ山で昇天の際に (ルカ 24:44-53、使徒 1:3-9)
- (12) ステパノの殉教直前に (使徒 7:55、56)
- (13) ダマスコ途上でパウロに (使徒 9:3-6、参照; 使徒 22:6-11、26:13-18、I コリ 15:8)
- (14) 宮でパウロに (使徒 22:17-21 参照; 9:26-30、ガラ 1:18)
- (15) カイザリヤの獄中で (使徒 23:11)
- (16) 使徒ヨハネに (黙示録 1:12-20)

この他にも多くの証拠がある。空の墓（マタイ 28：6 他）や弟子たちの行動は、主の復活を確信させるものである。また、ペンテコステにおいて三千人を回心させた事実、初代教会が日曜日を聖日としたこと、迫害の中にあっても初代教会が成立したことなどは主の復活なしには考えられないことである。

IV キリストの復活の理由

キリストの復活の理由として次のことがあげられる。

- 1、キリストはご自身の本質のゆえに復活した。（使徒 2：24）
- 2、ダビデの契約を成就するため（Ⅱサム 7：12-16、詩篇 89：20-37、イザヤ 9：6、7、ルカ 1：31-33、使徒 2：25-31）
- 3、復活のいのちを与える方となるため（ヨハネ 10：10、11、11：25、26、エペソ 2：6、コロ 3：1-4、Ⅰヨハ 5：11、12）
- 4、復活の力の源となるため（マタイ 28：18、エペソ 1：19-21、ピリ 4：13）
- 5、教会のかしらとなるため（エペソ 1：20-23）
- 6、われわれの義認が達成されたのでよみがえられた（ローマ 4：25）
- 7、復活の初穂となるために（Ⅰコリ 15：20-23）

V キリストの復活の意義

キリストの復活は、キリストの神性の重要な証拠となっている。それは罪と死に対する完全な勝利であったから、神の力の基準でもある。（エペ 1：19-21）パウロがⅠコリ 15：17で言い表したように、復活は私たちの信仰の礎石であり、その上に堅く立っているのである。